

豫科練



No.469 令和4年

3・4月号

○連載《シリーズ海軍及び予科練各種記念碑・慰霊碑》No.11…	2
○連載《シリーズ海軍飛行予科練習生遺稿》……………	3
○第55回予科練戦没者慰霊祭のご案内……………	4
○三四三空隊史①……………	5
○故遠藤中佐を偲んで……………	9
○さらば予科練③……………	14
○新刊図書の紹介……………	19
○事務所の開設に寄せて……………	19
○雄翔館見学者所感……………	20
○寄付者芳名簿……………	22
○事務局日誌……………	22

公 益
財 団 法 人

海原会

高松宮喜久子妃殿下
予科練習生を偲びて

海を征に

はつおほそらに

散華せし

さみら声なく

いく春やへし

おろそ

おろそ

高松宮妃殿下御歌

霞ヶ浦に立ちて海軍飛行
予科練習生を偲びてよめる

海はらに

はたおほそらに

散華せし

さみら声なく

いく春やへし

この御歌は、高松宮喜久子妃殿下の御直筆で、有栖川流と申しあげ、妃殿下はその御宗家にあられると承ります。

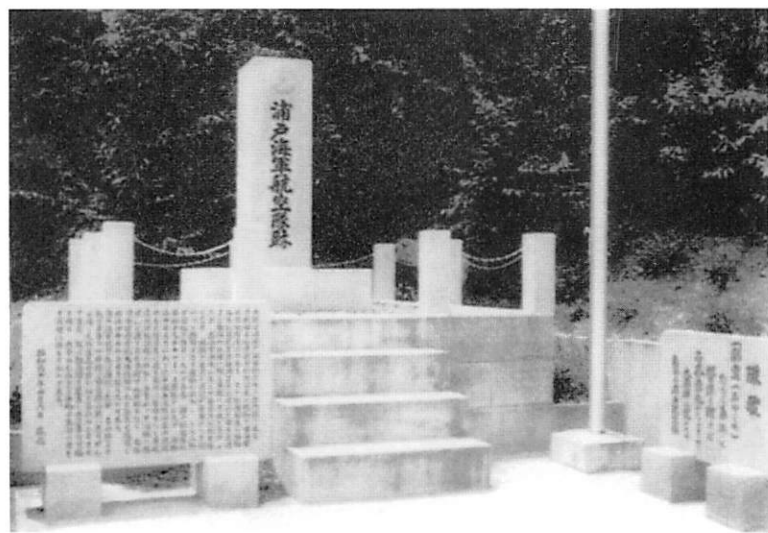
海軍及び予科練各種記念碑・慰霊碑 浦戸航空隊碑 No.11

浦戸海軍航空隊は、予科練教育担当の練習航空隊として、昭和19年11月1日高知県長浜町に開隊され、甲種飛行予科練習生14期生約千名が松山空から入隊した。更に三重空奈良分遣隊で教育査察を終了した三分の一が入隊して教育を開始された。翌20年4月1日に甲飛最終期の第16期第一次が入隊したが、練習航空隊としての施設は整備されてなく、バラック建兵舎で教室も無く、整備作業が優先し、十分な予科練教程としての教科を行うことが出来なかった。

戦局が急迫を告げるや予科練教育は中止となり、昭和20年5月には予科練習生は陸戦隊編成となり、土佐湾防備陣地構築作業と陸戦訓練で本土決戦に備えた。

戦後、有志が相集い浦戸空での訓練期間、兄弟以上の絆を結んだ想い出の地に昭和52年に木碑を建てたが、第14期、第15期、第16期生の協力によって、青春の一時期を過ごした^{いしぶみ}しるしとして恒久的なこの『碑』を後世の為に建立した。

所在地 高知市仁井田東山(旧隊門跡)
規模 一・八米御影石。
建立 昭和六〇年四月六日



海軍飛行豫科練習生

遺書 遺詠 遺稿 辞世

遺詠

神風特別攻撃隊第一神風山桜隊
二〇一空・戦闘三〇一飛行隊

海軍一等飛行兵曹

滝澤 光雄

二二歳
長崎県

第十期甲種飛行予科練習生

蓄にて

散るも又よし桜木の

根の絶ゆこと

なきを思へば

昭和十九年十月二十五日始めての特別攻撃隊に選ばれ山桜隊として、ルソン島東方海域の敵機動部隊航空母艦に、零戦に50#を抱き夕バオ基地を発進して攻撃中に被弾戦死する。

遺詠

神風特別攻撃隊第二御盾隊
六〇一空第一攻撃彗星隊

海軍上等飛行兵曹

幸松 正則

二〇歳
大分県

第十六期乙種飛行予科練習生

亡き母の

写真を秘めて大空に

敵をもとめて

今日もはばたく

昭和二十年二月二十一日硫黄島周辺海域に襲来した敵機動部隊攻撃に八丈島基地より彗星艦爆に50#を抱き、第一陣として発進攻撃中に被弾戦死する。

第55回予科練戦没者慰霊祭のご案内

一 慰霊祭記念演奏会

日時 令和四年五月二十八日(土)

午後一時半開場 午後二時開演

場所 阿見町本郷ふれあいセンター大ホール

(阿見町本郷一、十一、二)

演奏 海上自衛隊横須賀音楽隊

二 偲ぶ集い

日時 令和四年五月二十八日(土) 午後六時開宴

場所 ホテルマロウドつくば「飛天の間」

(土浦市城北町二、二十四)

Tel. 029・822・3000

会費 六千五百円/一名

三 慰霊祭

日時 令和四年五月二十九日(日) 雨天決行

午前十一時 (受付九時開始)

場所 雄翔園 陸上自衛隊土浦駐屯地武器学校内

(茨城県稲敷郡阿見町青宿二二二の一)

※ 受付場所・予科練平和記念館横広場

送迎 JR常磐線土浦駅東口から送迎バスを午前八時半

以降折り返し運行いたします。

会費 参加者 三千円/一名(ご同伴者同額です。)

(会費はお弁当代及び慰霊祭実行のための諸費用として使用させていただきます。)

四 宿泊希望者(宿泊日 五月二十八日)

宿泊先 ホテルマロウドつくば

料金 五千九百円/一名(朝食付き)

(定員を超過した場合は、偲ぶ集い参加者を優先します。)

五 参加申し込み方法

※ 慰霊祭等の参加及び宿泊を希望される方は同封のハガキにより申し込みをお願いいたします。

ご参加等を希望される方のみ、本機関誌同封の返信用はがきに所要事項をご記入の上、切手は貼らずに四月二十六日までにご投函ください。

※ 今年の慰霊祭では直会には行いません。式典終了後にお弁当を配布いたしますので、指定場所にて各人と個別に喫食をお願いいたします。

六 お詫び

コロナ禍によりホテル利用料金が上昇したことを、お詫び申し上げます。

コロナの感染が拡大し、会場への入場人員数の制限や会場そのものが使用困難となった場合には、中止または規模を大幅に縮小しての開催となる場合もありますので、ご了承ください。

連絡先 「第五十五回予科練戦没者慰霊祭実行委員会」

電話 029・886・5400

三四三空隊史(11)

田村 恒春(三〇一)

前号よりの続き

高度四千米をこえる。私は最初敵機発見の時、先にあがった七〇一飛行隊、四〇七飛行隊の味方機ではないかと半信半疑な気持ちであったがそんな気持ちも一瞬にして吹飛んだ。

視界に入る敵機の数有余りに多く(二百機から三百五十機)蜂の大群の形容がピッタリだったからです。高度五千米をこえる敵機は呉の方向に飛んで行く。

隊長機が敵機(四千米)を追いながら左旋回する。高度五千米になったと思つたら隊長機が急降下して行く。我が一番機杉田兵曹が「ハナレルナ、ツイテコイ」の手信号を送ってくる。風防越しに左手を上げ答える。

隊長機が四千米くらいで五百米位下のグラマン艦爆かアヴェンジャか判らないが護衛

している二十機から三十機のグラマンF6Fに向かっていく。敵機との距離が五百米、三百米、二百米と詰まって行く。敵機も編隊を崩さずまだ飛んでいる。距離が百五十米―百米に近づく。

青色の機体と白い星のマークが見える。さらに近づく。「OPL」から敵機がはみ出し一部しか見えない。敵機が気付き反撃態勢に移る瞬間、菅野隊長を先頭に編隊を組んだまま突撃開始。

距離が五十米―二十米、敵の搭乗員の白のマフラーが風防越しに見える。スロットルレバーの発射把手を握る。ダダーと二十耗四門が火を吐くと同時にF6Fの右翼が眼前で吹飛ぶ。

以上が三〇一飛行隊の菅野隊長を先頭に、杉田区隊、他区隊の第一撃でした。

後は新選組隊歌二番の歌詞通りでした。「燃ゆる敵機は炎と化して、真澄の空に墨絵を画く。何んの物量も血をもて答う。

撃ちてしまん。撃ちてしまん。今ぞ阿修羅の新選隊」

その晩宿舎で「タムタム」と大声で呼ぶ我が一番機杉田兵曹。

今日の空戦で離れたとお目玉かと覚悟していたら、「タム、(田村)よくやった」と煙草(光)をいただいた。

杉田区隊から区隊撃墜賞に輝いたと云われ、これも一番機、空戦の神様杉田兵曹の活躍の賜物と今でも生死を共にした思い出の一コマです。

(今でも笠井兵曹が二番機で飛んでいたらと残念でならない)

昭和二十年四月 鹿屋進出。

四月十二日 杉田兵曹、笠井兵曹活躍。

四月十五日 撃墜王、空戦の神様、我が愛する一番機杉田兵曹、三番機宮沢兵曹の最期。

四月十八日(?) 我が愛する二番機笠井兵曹不時着、杉田区隊私一人になる。

国分基地転進(編成外にて地上勤務)

宮崎分隊士の列機として鹿屋基地の紫電改を松山基地に空輸。

五月 大村基地に進出(二飛曹に昇進)

菅野区隊の四番機を命ぜられる。

六、七、八月 菅野区隊と共に大型機、小型機、PB2Yなど邀撃戦に参加。

八月一日 剛勇、智将、菅野隊長の最後。

二番機眞砂福吉上飛曹、四番機田村恒春二飛曹、大村基地帰投後志賀飛行長よりお叱りを受く。三番機が誰れか記憶なし。

出水基地に不時着、中尉にピントをもらい、夜間飛行にて久々笠井兵曹の列機として大村に帰った思い出も、未だ忘れられない一コマです。

松村分隊長に笠井兵曹とペアーを組ませてくれとお願ひする。

以上、薄れた記憶をたどりながら書きました。

今日生あるのも菅野隊長、杉

田兵曹の列機になれたこと、剣部隊（三四三空）（紫電改）にいたからと思います。菅野隊長、杉田兵曹の列機であったことを誇りに余生を送りたいと思いません。

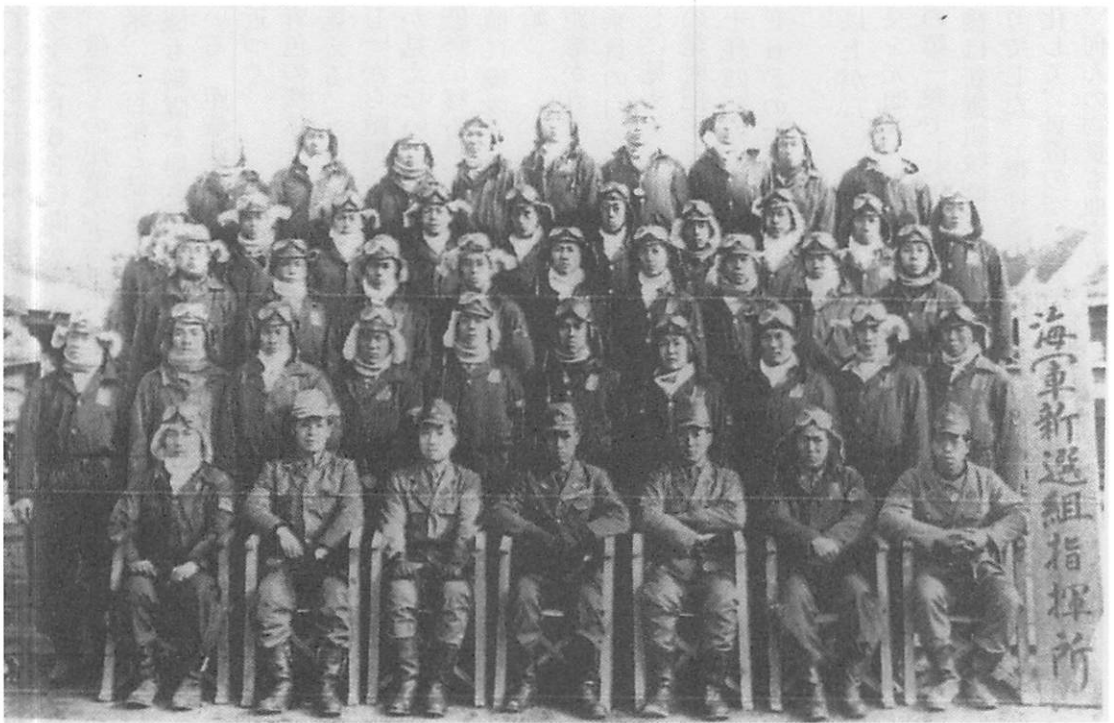
最後の空中戦

鹿野 至（三〇一）

私がルソン島の特攻基地マバラカットの二〇一空に思いを残し、三四三空三〇一飛行隊に転動したのは昭和十九年十一月であった。

松山でのいろいろな思い出は生涯忘れられないものばかりだったが、やがて基地を大村に移し、私にとって運命の昭和二十年四月二十九日がやってきた。その日早朝、敵大編隊南九州に接近中の情報に、待機中の全機爆音を大村の空にとどろかせて一斉に飛び立った。

私も紫電改にまたがり勇ましく発進した。とこまではよかったのだが……。愛機のエン



戦闘三〇一（新選組）飛行隊

ジンの調子が少々悪く、それでも空戦可能と判断し南に針路をとつたが、エンジン不調はなおも続き、大隅半島上空でB-29の編隊を発見した頃には僚機から大分遅れてしまった。

早くも展開された壮絶な空戦の大絵巻を目前に見た私は、もう我慢できなかった。そして単機で突込んでいったがたちまち集中射撃を受ける結果となり、巨大な火の玉が目前に広がった。

私はB-29の編隊の最後尾の一機を照準器に捕え、一撃をあびせて垂直ダイブで避退操作に移った。

目標の左エンジンから黒煙の吹き出すのを認めたが、瞬間私も風防を射ち抜かれ、続いて後部に何発か被弾を感じ、そして機は操縦不能に陥ってしまった。

そこまでの私の意識は停止し、再び意識が戻った時は落下傘で降下中であった。後に思えば、機は垂直の姿勢で墜落中過速となり、空中分解したのであ

ろう。

この空戦を最後に私は、不本意にも終戦まで病院生活を余儀なくされてしまった。

私の入院中にも、数多くの戦友が次々と散っていったが、受傷の身では如何ともし難く、ただだ断腸の思いの数カ月後病院で終戦を迎えました。

戦い半ばで挫折してしまつたことを深くおわびするとともに、亡き戦友の冥福を心からお祈りし、そして落下傘降下地点内之浦の山中から私を救出して下さつた陸軍丸梅部隊の勇士、また温かくお見舞いくださった地元の婦人会、青年団その他の皆様方に厚くお礼を申し上げる次第である。

三四三空を想う

大井 秋義 (三〇一)

(旧姓大西)

「これからの戦いは航空機であります。男と生まれ、至誠尽忠の念に燃え報国の気止み

難く、いざいでたつ男子の本懐これすぐるものはありません！」

駅前広場に集まつた多数の見送人に対し、十七才の若者がはり裂けんばかりの大声で元氣一杯挨拶をした、三十数年前のあの頃が懐しい。

肉体と精神を徹底的に鍛えあげられ、スマートでカッコいい、しかもおしゃれで負けじ魂の帝国海軍軍人ができあがつた。

昭和十九年十二月、岡崎海軍航空隊卒業と同時に転勤先が三四一空となり、鹿児島県串良海軍航空隊へ。

ここで昭和二十年の正月を迎えた。が雑煮の味未だ醒めやらぬうちに早くも宮崎海軍航空隊へ配置転換となつた。

予科練を卒業して実施部隊へ配属された後尚、進士官級分隊長のもとで、毎日々々攻撃、敢闘精神、犠牲的精神や責任感等について、時には忘れかけていた精神注入棒もとんできて、徹底的に鍛えあげられた。

戦局の変わりつつある様相が肌で感じられるようになってた。

われわれ同僚たちには、階級章の外に左腕に黄色の桜花のマークがつけられていた。

もしかすると人間爆弾の桜花特攻要員ではないのかとも思った。それから二カ月後早くもまた移動があつた。転勤先は三四三空で、我が郷土である愛媛県の松山海軍航空基地であつた。

各地から戦闘機の搭乗員でもっとも腕ききの歴戦のパイロットが続々と集結した。どの先輩の顔にも国家の命運を一身に背負う責任感と闘志が漲つており、その姿を神々しく感じた。

基地移動物資の搬入が終わるや、我々同僚のうち何人かは三〇一飛行隊所属となり、先輩の搭乗する紫電改の整備の手伝いをしたり、時にはモールス信号の練習をしたり、実戦から疲れて帰投した搭乗員に代りいち早く操縦席に入つて所定

の場所へ飛行機を運んだり、やや無任所的立場におかれていた。

その時の所属班長が日光上飛曹であつた。非常に温厚な方で男振りもよく、何かと指導をいただいたものだが、間もなく名譽の戦死をされたのが残念である。

日光上飛曹に代つて同じくいろいろご指導いただいた人が、去る七月二十四日の紫電改搭乗員慰霊祭の折、三十四年ぶりに面会できた佐藤(精)上飛曹である。

休日には松山市内の小濠端近くにある、外出時には何時もお世話になる時計屋さんの二階で、郷里の伊予三島市から父母に来てもらい、田舎の近況をききながら母手作りの弁当をいただくのが、最大の楽しみ、鋭気を養う機会であつた。

戦局も日増しに苛烈の度を加え、邀撃を終えて帰投した先輩と食事を共にしながら壮烈な空戦の模様をきく日もだんだんと多くなつてきた。

五月の幾日だったかに、また基地移動があった。佐藤先輩等は鹿屋から国分、そして大村へと移動した。我々は、松山から直接大村基地へと移動した。大村基地には、主力戦闘機紫電改の外に雷電も配置されはじめていた。

B-29や艦載機グラマンF6Fの来襲も頻繁となり、当然邀撃の回数も多く、その戦果たるや敵を圧倒し、新選組搭乗員詰所も殺気と自信に満ちあふれていた。待たれるのは不足がちとなった飛行機の増加である。

大村湾に映える真っ赤な美しい夕日が沈みかけた七月下旬のある日、突然に鳴尾の川西航空機製作所行きを命ぜられた。そこは名戦闘機紫電改を製作している唯一の工場である。

時折空襲警報が鳴り、あるいはグラマンの銃撃を受けながら、祖国防衛の精神に燃え、技術員に混じって白い鉢巻をした若い女子挺身隊員が銃打ちしている姿は、清く美しかった。

我々は毎日その現場を激励してまわった。一機でも早く戦列に加え、本土決戦の重大な任務につかせなければならぬのだった。

しかし鳴尾にきて一週間もたたないある日、大村基地への帰隊命令がウナ電で入り、急遽帰隊した。その三日後の八月六日広島に原爆が投下され、さらに八月九日長崎にも投下された。その日私は、場内を飛行場に向って歩いている時であった。

瞬間紫の閃光が目に入り、光の方向である大村湾に顔を向けたとたん大音響と共に軽い爆風を身体に受けた。

間もなく湾の向うに真っ赤に焼けたキノコ雲がモクモクと立ちあがってゆくのをみると共に、上空に白く光った一機のB-29が東南の方向に飛び去ってゆくのを目撃した。

灼熱の太陽の下、シャバでの生水が元でついに大村海軍病院への入院となり、ほどなく終戦。殉国の気やみがたく、また

先輩、上司の身が案じられてならなかった。

我々の先輩である予科練出身実戦参加搭乗員の七〇%以上が戦死した。過去の世界戦史にも例がない。帝国海軍の伝統であるサイレントネビーは長く続いた。

三十四年ぶりに城辺町久良湾海底から引揚げられた紫電改の姿を見る時、その靈魂こそ戦後日本の守り神として海底から長くその発展ぶりを見守り続けたであろう。

いま世界の経済大国として、形こそ違え勝利を収めたのである。培われた強靱な肉体と精神は、発展途上における年代人として、その一翼を担ったことにいささかの疑念もない。

去る七月二十四日、御荘町馬瀬山山頂公園での慰霊祭に参加し、菊花一輪を献げ、久良湾の見えるこの安息の地において先輩の霊安かれと祈ることができたのが、何よりであった。また三十四年ぶりに源田司令や志賀飛行長のお元気な姿

を拝見することができたことや、当時直接お世話になった佐藤先輩に再会することができ、誠に感慨無量であった。

青春の一時期を帝国海軍航空隊の一員として苦しみ、また喜んで過ごしたことは、私の大いなる誇りであり、今後とも決して忘れることはないだろう。

奇兵隊の歌

作詞・作曲 奇兵隊員

一、真の男の顔見たけれや

松山基地の奇兵隊

苦みまじって黒いけれど

ぐっと見つめるあの瞳

二、あの娘が招く松ヶ枝町へ

行きたい思いを

ぐっと噛みしめて

男寡夫の基地隊ぐらし

赤い花咲きや気も躍る

次号に続く

故遠藤中佐を偲んで

丸山 恒子

この記事は、海原会懸賞文に応募された作品です。(事務局)

まえがき

大東亜戦争中、B29の撃墜王とうたわれた故遠藤幸夫中佐の若き日を思い出して、私の知りうる限りの海軍軍人としての遠藤中佐の生涯を拙いながらも書き残したいと思い、またそれが亡きお方へのご供養ともなると信じペンを手にしました。

昭和十一年〜十二年頃にかけて遠藤幸夫様ご一家が私宅のすぐお隣に越しておいでになったのです。

遠藤家は、若い奥様とおじい様、おばあ様とご主人、そして生まれたばかりの赤ちゃんつまり長男の澄幸さんの五人家族でした。それまで、阿見町（茨城県稲敷郡）の霞台にお姉様と共にお住まいだったようですが、同

じ年にお姉様も御出産し、同じ年内に又同じ家での姉妹の出産は「生まれた子供に勝ち負けがつく」とのお母上の考えから、少し離れた学校区へ越しておいでになったとのことでした。

おじい様とおばあ様がとても子煩悩で、少しでも赤ちゃんの元気がないと、直ぐに診察をとも我が家においでになっていたのです。小児科内科医院であった我が家が、直ぐ近くで本当に力強いとおっしゃって、とても懇意にお付き合ひしておりました。また遠藤さんはとても勉強家で、私共の二階の一室をお気に召してよく勉強しておりました。

お話も面白くユーモアたっぷり、主人も海軍さんが好きでしたので気が合ったのだと思います。日曜日などは、私の息子の幸雄を土浦などへ連れて行ってくだされ何かと買って頂いたりして大好きな海軍さんとなっていました。息子が丁度七歳の頃でしたが、遠藤さんも子供好きだったのです。

昭和五年予科練第一期生が募

集された際、採用予定九十名に対し五千七百六十四名と実に六十四倍の応募者があり、最終的に七十九名が採用されましたが遠藤さんはその合格者の中の一入であり、横須賀海軍航空隊に第一期海軍予科練習生として入隊しました。

当時直接の教官、浮田信家分隊長に教育を受けました。

そしてまた霞ヶ浦海軍航空隊に在隊中は、小園大尉の教え子でもありました。その後遠藤さんは優秀な技術を身に付けて軍務に精励していたのです。その頃は、住居を千葉県館山に定め、またご主人のお勧めでフミ子夫人は、将来のためにと東京の洋裁学校に入学され、父・母上が健在でしたので幸せな生活を送っておいででした。洋裁学校卒業後、長女の康子さんを出産なさったのです。

大東亜戦争開戦

昭和十六年十二月八日ハワイ真珠湾への、暁の奇襲攻撃を皮切りに大東亜戦争は開始されました。西はインド洋から北はア

リユーシャン、豪州に至るまで広範にわたり海鷲たちの活躍舞台となったのです。

言うまでもありませんが、土浦海軍航空隊において基礎訓練を受け、ここを巣立った七つ鉦の制服も凛々しい予科練習生たちが、一機一艦捨て身の戦法で敵を震え上がらせていたので。

当時は、戦果があるたびにラジオから流れる軍艦マーチに、身も心も弾んだものでした。

十二月八日に続いて、九日と十日にも更に追い撃ちをかけるように、在フィリピンのアメリカ空軍を一気に叩きつぶしたのです。

この日、占領したばかりの基地に飛んだ小園中佐は「空の要塞」と呼ばれていたB17の機体構造や防御火器を徹底的に調査し、その優秀さに驚愕したのでした。

「さすがはアメリカだ。すごい爆撃機を造るものだ」世界一の優秀さを誇る零戦でも、まともに向かったら撃墜するのは難しい。そして、こういう飛行機を創

り出すアメリカ相手の戦争がいかに困難であるか、戦局の前途に容易ならざるものを感じたのです。この時の小園中佐の不安は適中したというべきでしょう。昭和十七年四月ごろにはラバウルで共にしのぎを削りあうことになるのです。

遠藤さんは、開戦以来太平洋や中国大陸の各戦線で活躍していました。その頃ラバウル基地では専らB17が夜間爆撃を繰り返してわが軍を悩ましていたのです。

このB17に対応すべく開発された小園中佐考案の斜銃装置を備えた二式陸偵の実験飛行の操縦桿を握ったのが、かつての教え子遠藤さんであったのです。遠藤さんは偵察機乗りであり、ラバウルへの出動の一週間前の出来事でした。

実験は二式陸偵の胴体に上向きと下向きに二挺ずつ装備した20ミリ機関砲による照準発射法と、その命中率に主眼が置かれました。そして零戦との空中戦闘と探照灯照射の夜間空戦、

斜銃の夜間照準発射などが、二日間にわたり実戦さながらに繰り返されました。小園中佐は遠藤機に同乗して指示にあたりました。

基地に降り立った遠藤さんは目を輝かせて「司令これはたいしたものです。これなら絶対にB17を墜とせませすよ」と太鼓判を押したのです。小園司令は「君もそう信じてくれるか」と快心の笑みを浮かべました。

小園中佐指揮する251空が進出した昭和十八年三月ごろにはラバウルはB17の定期的な夜間空襲で、落日の色が濃かったのですが、夜戦搭乗員達は黒眼鏡をかけて訓練に訓練を重ね張り切っていました。

そんなある日、工藤上飛曹搭乗機が、来襲したB17機に追尾してあつと言う間に二機を撃墜してしまつたのです。しかもそのうちの二機は、七万人の陸海将兵の見守る上空で火炎に包まれ赤い火の塊となって海上に墮ちたのです。不落といわれた空の要塞の凄まじい墜落の光景

を目撃した将兵は、歓声をあげて喜びました。

これが全海軍を通じて、夜間戦闘であげた初めての戦果だったので。殊勲の二式陸偵は「月光」と命名されたのです。

B17はその後数十回回来襲しましたが、一か月足らずの間に実に十五機が撃墜されました。このためにか、B17のラバウル空襲はピタリと絶えました。その替わりにブイン方面に現れ、海軍基地を爆撃し始めたのです。

このB17退治に遠藤機がバラレに進出、しかしここで敵機コルセアの襲撃に合い、遠藤さんは墜落したコルセアの破片で腹部に重傷を負い、ラバウル経由で日本に帰国することになりました。

帰国後は木更津航空隊付となつて、自宅療養を続けていました。レントゲンで透視すると傷のすぐ上に破片が止まつており、軍医は手術しなければいけないと言つたのですが遠藤さんはそれを拒否したのです。「現在の戦況を思えば、とても寝てな

んかおれん。手術すれば前後かなりの時間がかかる。どうせ死ぬ身なのだから、破片が入つても同じことだよ」と、その言葉に軍医も二の句が継げなかつたとのこと。それではと、化膿しないように、十分な手当てをして、大尉は破片を腹部に抱いたまま302空へ転勤となりました。

厚木航空隊誕生

昭和十九年末、小園司令は厚木基地司令として着任、また横須賀鎮守府の航空参謀をも兼任していたので、厚木基地の戦闘機発進を直通電話で命令するなど筆舌に尽くせないほど多忙な毎日を送っていました。そうした中で苦心の末、日本海軍最大の厚木航空基地が完成したのです。

「302空」が所属し、保有機数八百機、兵力も六千人を数えるほどであったといわれています。しかし戦局は次第に逼迫し、B29戦略爆撃隊の日本本土爆撃が本格化してきたのです。

昭和十九年十一月B29一機が、一万五百メートルの上空から東京に侵入し京浜工業地帯の空中写真を撮りまくっていました。その後も数次にわたり侵入しては写真を撮りまくる状況が見られました。これは、関東地方重点爆撃の準備段階で、必ずB29がやってくるかと判断されました。

昭和十九年六月中国の成都基地を飛び立ったB29による日本初空襲が福岡県八幡に行われました。佐世保鎮守府からの要請にもとづき、遠藤さんを隊長とする月光3機からなる派遣隊が大村海軍航空隊に派遣されました。大村空に派遣された遠藤さんは、中国大陸基地から五回にわたって北九州に侵攻してきたB29六機を撃墜、防衛総司令官、東久邇大将から感状を授与され又西部軍司令官、下村定中将からは抜群の功績をたたえられ、軍刀一振り贈られるなど大活躍の日々を送っていました。

この年大尉に昇任した遠藤さ

んは、同年復帰命令が下り厚木に戻ってくるようになります。

B29八十八機が大編隊を組んで東京上空に姿を見せたのは十一月二十四日の昼頃でありました。高度一万メートル、大空を圧する銀翼の大編隊が水蒸気の尾を曳いて遊弋する光景は壮絶でまた美しくも見えました。

B29群は中島飛行機工場と東京港周辺を爆撃しましたが、被害はそれほどありませんでした。それ以来多数機で来襲するB29を、遠藤大尉は迎え撃って力戦敢闘し、その撃墜数も日毎に増え愛機の胴体には十六個の桜のマークが描かれていました。

この頃のラジオのニュースや新聞にはB29の「撃墜王」、「空のエース」などと遠藤大尉の名声は高まり、ラジオから軍艦マーチが流れると、我が家でも一家をあげて拍手して喜んだものでした。そして若き日の大尉を思い出しては話に花を咲かせたのでした。

昭和二十年一月九日の午後、

関東地区に侵入したB29の大編隊に殴り込みをかけた遠藤大尉は銚子上空で二機撃墜、一機撃破という殊勲を立てたのです。その力を証明してみせたのです。

遠藤大尉は自分のこれまでしてきたことは軍人として当然のことで、無謀であろうとなかろうと生命のある限りは戦い続けなければならぬのだと常日頃口にしておられ、新聞や何かに撃墜王などと書き立てられることを大変迷惑がっていました。英雄視されることは大尉の性に合わないのです。大尉は昭和二十年の正月早々に、恩師の浮田信家大佐に次の文面の手紙を差し上げていたのです。

「謹啓 皇土空襲も本格的と相成り私議一同御宸襟を安んじて奉るべく、日夜任務に従事致し候、其の後浮田大佐には日夜ご多忙な日々を御過ごしの事と御推察致居候、遠藤、恩師の御教訓を銘じ必殺七生を以て敵機に突入致居候

先日昨夜B29屠り申候武運の不思議に驚き居候搭乗員は敵機を撃墜するのは当然にして、新聞、雑誌にて戦果云々を報ずる点全く迷惑致居候

新年を迎え 恩師の御健闘を御祈り申し候

待機中にて乱筆御容赦ください度、伊藤より宜しくとの事にて候

一期海軍大尉 遠藤幸男

浮田御師殿 侍史」

(右のお手紙はフミ子夫人より直接御送り戴き拝見いたしました。浮田様への絶筆となりました。貴重な御手紙 拝読致しました。胸いっばいになりました。この御手紙にて遠藤大尉の御心境伺い知ることが出来ました。)

遠藤大尉ついに戦死す
昭和二十年一月十四日午後B29六十機が相模湾に向かっています。厚木基地では激撃態勢を整えて待ち構えています。

父島哨戒基地より無電があり、

敵は進路を変えて中京地区へ向かったと伝えてきました。敵は敬神崇祖の中心である伊勢皇大神宮と、熱田神宮を爆撃し日本人の戦意を根底から叩き潰そうと計っていたらしいのです。

「名古屋屋に向かった」と聞いて基地は俄然色めきたちました。小園司令は歩み寄って云いました。「遠藤大尉行ってくれるか」と。「無論 喜んで行かせていただきます」浅黒い頬に微笑みを含んだ大尉はそう言い残したまま列線の方へ走り出していきました。

「遠藤！」と呼びかけましたが、司令は声を呑みこみました。何となく不安な取り返しのかも知れないような思いがしたのかも知れません。「遠藤をこのまま飛ばせたくない」とそんな思いが脳裏を掠めました。しばらく立つたまま大尉の後姿を見つめていました。

司令は前から月光で昼間飛ぶのは危険故止めるようにと制止したこともあった由、然し大尉は「司令 お言葉ですが戦闘機

乗りは空で死ぬことが本望です。夜間しか戦うことができないなどというのは本当の戦闘機パイロットとは云えません」と笑って答えたとのことでした。大尉はいつも自分にそう言い聞かせていたのです。もうひとつ負けん気の意地があつたのだと思います。大尉は戦うことが先ず第一、斜銃に対する絶対的な信頼感をもち俺がやらなければ、という責任感が大尉を戦いにかり立てたのかもしれない。

日毎に我が方は敗色濃くなり遠藤大尉ら厚木空精鋭の孤軍奮闘ぶりはいかに悲壮なものであつたか思い俵ばれるのです。遠藤大尉は司令の制止を振り切つて又も白昼の邀撃戦に舞い上がつて行きました。墜として墜としても限りなく殺到してくるB29、いくら叩き墜してもいつこうに減らない恐るべき物量には負けん気の意地だけではとても対応できるものではなかつたのです。

日毎夜毎の激戦で、睡眠を取る暇もない大尉は神経も体もく

たくたに疲れ切っていました。しかし大尉は決してそのことは口にしませんでした。白昼攻撃が、いかに無謀であるかは誰よりも自分自身が一番よく知っていました。

名古屋上空では既に壮絶な邀撃戦が展開されていました。真つ黒い弾雲が空を覆い銀色の機体がキラツ、キラツと光る。鐘馗、飛燕が逃げるB29に左右から襲い掛かつていく。高度八千「全機突撃せよ」と、後続機にバンクをおくつた遠藤大尉は同乗の西尾上飛曹に「行くぞつ 西尾」と叫ぶ。大尉にとつて西尾は可愛い弟なのでした。「我只今より攻撃を開始す」西尾はキーを叩き基地へ第一信を送ります。午後二時五十分でした。

大尉は海上に逃れようとする敵機を追つて機首を左に旋回、するすると背後から死角に潜り込む。敵機はホースから水が噴き出すようにガンガン撃ってきます。距離二百！絶好の射距離だ。二十ミリ斜銃弾が弾道を描いてB29の翼の付け根に吸い

込まれていきます。グオーツと炎が噴き出し銀色の巨体を包み始める。素早く反転離脱した時B29は空中爆発しどす黒い煙と同時に無数の破片が宙にとび散りました。

「敵一機撃墜！我攻撃を続行す」西尾はすかさず、第二信を送りました。遠藤機の左上空にB29の巨体が再び覆いかぶさってきました。機はぐんぐん上昇し、ぐいぐい接近していきます。角度を修正してただちに攻撃に移ります。突き上げるように下方から撃ち続ける。敵機の翼から黄色い煙が流れ出す。更に追い打ちをかけた時、敵の後部旋回銃が遠藤機のガンソリタンクに命中しました。

遠藤大尉は戦場から離脱すると、機を横滑りさせて消火に努めました。南の戦場では幾度も火を噴いたのですが、いずれも消火に成功していたので遠藤大尉は自信を持っていました。機首を海上に向け大きく左右に滑らせながら飛行を続けました。しかるに、火は広がる一方

で、次第に高度が下がり始めていきます。機は豊橋市から渥美半島の田原町上空を通過、黒部部落の畑上空にさしかかっていました。大尉は消火が不可能であることを知ると、機の放棄を決定しました。最初に飛び出したのは西尾上飛曹でした。大尉はそれを確認すると燃える機を操って左に急旋回、青津部落の上空に達してから脱出しました。だがなんと不運なことでしょう。大尉と西尾のパラシュートは開かず、墜落死してしまつたのです。

西尾のパラシュートは翼端に紐がひっかかつて切断。大尉のパラシュートは炎で焼け切れていたので。遠藤機は、神部村青津部落の河合さんの山林に機首から激突、黒煙に包まれて二時間近く燃え続けました。片腕とも思い込んでいた秘蔵弟子遠藤の戦死は豪放をもって知られた鬼司令に激しい衝撃を与えました。

「遠藤の消息はまだか？」遠藤大尉を案ずる小園司令は、ピストの中を歩き回りながら副官の

顔を覗きました。「まだ入電がありません。しかしもう間もなく」と副官はまるで自分の責任であるかのように小さくなって答えました。「遠藤は生きています。きつと生きて帰ってきてくれる・・・」三時間前、爆音を残して鮮やかに離陸して行つた遠藤機の機影が司令の眼裏にはつきりと刻まれていました。

愛機の胴体に描かれた十六個の桜のマークそれは遠藤がわずか二か月の間に叩き墜としたB29の機数です。「彼は不死身だ。死ぬわけがない」と司令は再び呟いたので。兵曹長だつたころの墜落事故(エンジンの故障)で、意識不明のまま生死の間を彷徨しつづけても立ち直つた時の事なども思い出して祈るような思いでいた司令。ああ、その願いもむなしく夕刻に至つて悲電が入りました。

「遠藤大尉操縦の月光第一機、渥美半島神部村山林に墜落せり、遠藤大尉、西尾偵察員絶望」ぞくぞくと帰投する友軍機の爆音の中で、基地は深い憂色に包

まれていました。司令は一人戦闘指揮所に立つて、帰らぬはずの遠藤機を待つていました。

陽は西に傾き丹沢山麓を赤く染めつつ紫深き暮色に包まれていました。それでも動くともせざできれば豊橋まで飛んでいつて、遠藤を抱きしめてやりたいとそんな思いに駆られていたのかも知れません。

B29必墜の武器斜銃を最も早く会得してくれた遠藤、そしてその威力と真価を十二分に發揮し敵を悩ませた遠藤、それでいて手柄顔ひとつせず照れくさそうに顔を赤らめる遠藤、純情な男「ああ、あの遠藤がもう帰つてこないとは」小園司令の頬に、一筋の涙が光つたのでした。

戦死一週間前の大尉の帰宅も、月一回しか休暇はとられませんでした。食べ物なども魚などよりは野菜がお好きで、特に枝豆は大好きで帰宅の前にはいつも注文があつて用意しておいたとのことで、それを美味しくうに平らげると満足げに高いび

きの昼寝をしたのだと言われています。昭和二十年の正月大尉は一か月ぶりに館山の家族の所に帰りました。家ではあまり笑い顔など見せないのに、その日に限つて長男の澄幸さん相手に模型飛行機を組み立ててやり取りしました。

常ならぬ夫のそんな姿を見ながらフミ子夫人はふと何んとはなしに心安らかならざる予感を覚えたといひます。「この人はもう二度と家に帰つてこないのではないか。」と。

当時七歳だつた澄幸さんは、その時のことをおぼろげながら忘れずにいました。

「父は、たまに家に帰つて来ても余り口はきかなかつた。いつも何か考えているような顔をしていて。そうでないときは大の字にころがって大きな肝をかいていた。そんな父さんを見て僕は随分疲れているんだなあと思つた。父の側に行くときと汗と油と革の匂いがプンと分かつた。それは戦争の匂い戦争をしている父の匂いだと思つた。」

「子供心にも強く印象付けられたのを覚えています。父が最後となった休暇で家に戻った日、模型飛行機を組み立ててくれた時、僕はすごく嬉しかった。また、妙に悲しかった。いつになく優しい父が悲しかった。そして身支度をキチンとして家を出た時、僕は切ないほど、父の後を追いかけて行ったのを覚えている。お父さん、この次はいつ帰るのかな」といながら・・・『さあ何時になるかな』と父は始めて笑顔を見せた。それが僕が見た父の最後の姿でした。」

最後の出撃となった五日前、遠藤さんはフミ子夫人にハガキを投函しています。「今後の通信は一切無用のこと。俺のほうからもしばらくは出せないかも知れない。子供たちのことをよろしく頼む」夫人への決別の言葉にしては余りにも簡潔であり、受け取った夫人のその時の心中、只想像に余りある思いがして、それだけに遠藤さんの己への厳しい胸中が察せられるのでした。

続く

さらば予科練

③

乙飛十九期 山田 稔

私の戦争体験

「手記をあつめ自費出版」

昭和十七年十二月一日、予科練（通称海軍少年飛行兵）として土浦海軍航空隊の隊門をくぐった私は十四歳十ヶ月の少年だった。

なぜ？軍隊に！

と今問われても答えにつまる。

私が物心ついたその当時、すでに中国で日本の侵略は開始され、新聞、雑誌は、忠勇兵士の美談や戦争を美化した記事で飾られていた。当然、学校教育もそれに沿ったものであった。

この国に生まれて、男子として生きてゆく道は決まっていた。

どうせ軍隊に取られるなら飛行機乗りに、そういう気持ちがあったことも否めないし、学

校や、村などもむしろそれを勧誘し、奨励した。

私の場合、師範学校と予科練に合格し、一度は教師になるべく準備中の処、村長や役場の兵事主任の強引な説得に負け、予科練への道を歩むことになった。

天皇と国のため

入隊しての訓練は、身を犠牲にして天皇と国のため死ね！というものであり、事実、昭和十九年八月、特攻隊志願があった。

軍は早くから若者を殺すことのみ考えていたのである。

私が今生きているのが不思議で、十八年頃より、海軍は搭乗員の消耗に焦り、大増員と短期育成に着手した。学徒動員で数千の予備学生がまた、「特」の名のつく、予科練生が二ヶ月毎に多数入隊し、私たちより早く卒業していった。

この人たちが、早く飛行機に乗りそして技術もままならぬまま、苛烈な激戦場へ投入され、特別攻撃隊として爆弾を抱え

て体当たりして散っていったために、飛行機に乗ることも（機数もなかった）卒業も遅れ、しかし生き残ることができた私である。

昭和の「かたりべ」に

戦後、一日としてこれら亡くなられた人々のことを忘れたことはない。機会あれば慰霊を行い、また、故人の遺書や、生き残った仲間の手記を集め、去る五十年、記録集を自費出版した。永久不戦の誓いを込めて。それはまた、私のかげがえのない青春の証であると共に、昭和の「かたりべ」としての使命と考えたから。



休暇の思い出

予科練における十九期の休暇は、先輩十八期の三回には到底齒が立たなかつたが夏二回あつた。

一途な少年の思いで予科練に身を投じたものの故郷や家族に寄せる情愛はまた、ひとしおである。たぶん母の手料理や郷土名産の味覚ともだぶつて……さて休暇が決まると、一ヶ月ぐらい前から白の七つボタンや靴の手入れに忙しい。土空の第二練兵場に面した第十六兵舎からは、常磐線土浦駅を出る夜汽車の汽笛が遠く聞こえてくる。あれに乗って帰ると思うと思わず胸が熱くなつてユラリ、ユラリ、釣床のお隣さんといついつい話はずんでしまう。休暇を目前にしたある日、我が親愛する分隊長はこもごも休暇中の心得を述べたが、練習生も一人前とみたのか、〇〇と遊んだ場合の処理の方法を懇切に付け加えて教えてくれた。明石分隊長が「まだ練習生は子供ですから」と言つても「な

にこれは大事なことだから」と聞かなかつた温好、慈父のごとき分隊長、その後間もなく特乙を受け持たれ、我々は心ならずもお別れを申し上げたのだつたが。

久しぶり!とは言ふものの、わずか八ヶ月ぶりを見る故郷のすべてがなんと新鮮で、別世界のようだったか、これは予科練の厳しい訓練によつて心身ともに成長し、いわゆる我々の「目」が変わつたからに外ならない。広い土空から見えて、なんと狭く、ちっこい故郷の家や、山河であることよ。

家でしばし落ち着くや、早速さつそうと外に飛び出してみる。特別に「母校を訪問してみよ」と言われたわけではないが、恩師を尋ね、生徒の前で予科練生活について一席ぶつ。先輩の十四期笠原練習生(故人)もジョベラ姿でかつて母校へ来た。

そして私が今、後輩としてここにいる。語る言葉に思はず力が入る。その故かどうか。

後、我が村から二十一・二十三・二十四期と続いて後輩が予科練の門をくぐつたのである。十日間の休暇はたちまち過ぎゆく。

終わればまた、あの罰直の生活が待っていると思うと気も重いが、有難い訓辞の分隊長や、歴戦帰りの話せる班長も我々の無事の帰隊を待っていると、大福餅の包みを小脇に土浦へ急ぐ。

二年目の休暇の時は一日、一日を充実させる為に休暇日誌をつけることにした。たまたま母は病気で我が家の農作業もかなり遅れていたもので、帰る早々、二日稲の田の草取りを手伝う羽目になつたが、これは三重に帰つた後、日誌を班長に見られ、大いに賞められた次第。

また、この時、三重の高茶屋から新潟の横川と一緒にになり隊まで帰ってきたが、途中、横川の持つてきた新潟名産のメロンを腹いっぱい平らげ、これで思い残すことなく元氣快復、「今改めてあの時は、

「馳走さま!」土浦、そして三重での訓練は厳しかったが、いつか、きっと大空へ!と、苦しみの中でも楽しかつた我々。

まだ日本は勝つていたと思つていたし、負ける筈は絶対ないと信じてた日々。今思うとたまらなく愛しい。

思えば日本もなんと壮大な夢を追つたものか。若い時は「なんて阿保な」ともけなしたが。

当時の日本をめぐる情勢はあのような行き着く処へ、行くしかなかつたように思う。特にソ連・アメリカの思うツボにはまったことは遺憾の極みであるが、あの大戰に参加した者すべて、死にし者も、生きて今ある者もかつてない世紀の大業は、一敗地にまみれ破れはしたが、その輝かしき時に力一杯戦い、そして生きたことを思えば、むしろそれを誇りにこそ思え、決して卑下したり、ましてや怒り、怨むいわれは更々ないと信ずる。

戦後、日本が平和国家としてこのように成長し、全ての人々が豊かな日々を享受できるのも直訳すればあの大战の結果であった。しかし、戦後すでに三十八年、社会は、日本は、今、大きな曲がり角に來た。行き着くところは下降であり、まさに変化は近い。

遠く、果てしなく、どよもす未来に思いを馳せ、重々しく重畳する歴史の過去を偲ぶ時、そして暑い夏を年ごとに迎える時、白い軍服で、緑の光の中を歩いたかつての懐かしい日々をいつも私は思うのである。

予科練生と映画

私たちの楽しみのひとつである外出にも、「外出区域」が決まっっていて、その区域内でも立ち入り禁止地帯があり（赤線——、色街）そして映画館があった。

横須賀時代はどうであったろうか？。服装もセーラー服で一般兵と変わらず、紛れ込んで

もわからなかったのでは？五期生の大多和さんの話で、国語の時間、倉町教官の質問に、街で見かけた映画の看板の珍文句を答え「大多和は映画が大好きだったなア」と言われたが、どこでそれが知れたのだろうか？

一般の映画館に入れぬ練習生のため、情操教育の一環として、隊内で映画が上映された。

（軍港を出た艦でもしばしば映画会が開催された——後述）

三重海軍航空隊史という膨大な本があるが（編集は甲十一期梶山治・乙二十三期赤平弘両氏の労作で、特に終戦時焼却寸前の隊資料を持ち帰った赤平氏の功績は稀有の一言につきる快挙である）その記録から映画上映項目を拾うと次の如くである。

昭和18年9月10日

ハワイ・マレー沖海戦

11月27日 海軍戦記

12月25日 決戦の大空へ

昭和19年2月20日

映画会あり（内容不明）

3月19日 空の神兵（この夜と思う、転隊間もなく私たちは隊伍整然「ガッチリいこうぜ」と会場の、剣道場へ向かったが期不明の組にぶつかり相手は「オオ」と怒った様子で申し訳ない三重の同期か？ところで、

十八期卒業残留先輩は夜デッキに來て「土浦組の整然とした様に実に感銘した」と一席お褒めの言葉を頂いたが、土空と違い石ころだらけの隊内では歩調もやや乱れがちであった。）

4月15日 教育映画「爆撃」

9月9日

映画あり（題不明）

10月27日 映画鑑賞（二日間）

（この前後、鈴空の甲十三期・偵の通信再教育のため來隊とあり、関連映画か？）

12月28日 宮本武蔵

（一乗寺決闘？）

昭和20年1月3日

雷撃隊出動

17年及び18年前半映画上映がなかったのは、三重空が工事中であり、加えて乙十六期十七期等の、転隊受け入れ等の

理由から更に20年は空襲等のためと思う。

なお、19年7月10日～8月20日にかけて東宝ロケ「敵は幾万ありとても」の撮影が当隊で実施されたが、私もその後を知らない。

土空においては昭和18年3月18日「ハワイ・マレー沖海戦」が上映されたが、朝のしじまを破つての総員起こしから体操・訓練とふんだんに土空ロケが収録され、ないのはバッテリーだと誰かが悪口（本音）を吐いたが、そういえば倉町教官の「空の少年兵（私も一冊所蔵）」にもバッテリーはない。何としてもバッテリー制裁は全く海軍の恥部で、飛練ではもつと凄惨だったのだ。

口では「精神力だ」等と強調しながら実態は理性ある人間を信じず、牛馬扱いにし、これは奴隷（帆船）時代のイギリス海軍の悪業のみ、踏襲した唾棄すべき所産なのだ。

次にやはり土空ロケの「決戦の大空へ」これも三重空より早

く、全国封切とほぼ同時ではなかつたか。土空では酒保横の広場「手箱」持参の星空劇場。

英語(?)の教官はお母さんも招待し見せたところ「予科練生の純真さに感銘した」と手放しの褒めよう、それは確か、外出の時、小川にかかる橋を修理する等のシーンではなかつたか。

橋ほどではないが私も外出の時、霞空への坂で焼き芋買いの途中リアカーに木炭俵をのせ、なかなか動かぬ若い下士官(先輩か?)に会い友と二人後押しを手伝い、官舎まで思ったが可憐な若奥さん(新妻)がおられるのではと遠慮したところ、先輩は鏡餅を一つお礼としてよこした。これは二人、あとでどう食べたか忘れてしまった。

土空での正確な記録はないが私の見たいいくつかの映画を次に記そう。

「無法松の一生」原作岩下俊作の「富島松五郎伝」で映画に歌に有名となる。無知ではあつた

が一寸も浅ましい功利的な気持ちのない闊達な松五郎、孤独の裡に生き、そして死んで初めて未亡人に抱かれた阪妻の無法松(これは当時カット)清楚匂うが如き故大尉の妻・園井恵子さんは広島原爆で散華。

(合掌)親子との交流。学芸会や運動会マラソンの盛り上がり、青年になり敏雄は次第に松五郎から離れていく、小倉祇園祭の太鼓のバチさばき、ドンドコドンと今でも胸に蘇り、けれど、日本映画の傑作の一つである。「世界の敵」ドイツ映画。いかにイギリスが卑怯で残忍な民族か、(ポーア戦争・南阿戦争)を題材とし、オランダ系植民らのトランスバール共和国で金とダイヤモンドが出たのでイギリスは不法に戦争を仕掛け奪取した物語である。

「潜水艦西へ」ドイツのUボートの活躍を描いた映画で、日本のインド洋での同じく「轟沈」と好一对であろう。

このほか邦画で「望楼の決死隊」を見た?ような気がする。

この映画は18年封切り朝鮮国境の警備隊の話だが曖昧な記憶で隊でなければ休暇の折か疑問だ。

確かなのは翌年夏休暇の時、街の映画館で大河内伝次郎主演の川中島合戦の映画を見た。内容はどなたもご存知、信玄・謙信一騎打ちだが、戦時下と言うハンデにもかかわらず美しい映画で、特に武田荷駄隊(輜重)の苦悩等取り上げた一面も斬新で妻女山にかかる仲秋名月、夜空を流れる白雲の描写が忘れがたい。

ちなみにまたまた手前味噌になるが、この時の休暇をイラスト入りに日誌まとめたところ、帰隊後原口班長より「誰か日記を書いた者はいないか?」に手を上げ提出、役場、学校訪問、演説そして援農(田の草取り2日)墓参りと誰が見ても模範予科練生、とうとうこの日誌は、お取り上げをくらしい私の手許には帰ってこなかつた。今あれば懐かしさ一入なのだが。

処で主題からやや逸脱するが、辺見じゅん著「男たちの大和」及び鬼内仙次著「島の墓標―私の戦艦大和」を読み驚いた。(この歳になってやたら驚いては体に毒だが?)大和の飛行科の格納庫の広さは百坪位、この中で「愛染かつら」や「姿三四郎」等の映写会が行われたが、イギリス軍からの捕獲品「ピノキオ」も上映されたという。更に驚くことに(又々)ディアナ・ダービン主演のアメリカ映画(ユニバーサル・昭和13年、戦前日本未公開)「オーケストラの少女」が上映され、好評だったためアンコールに充てて、2日後にまた公開される予定だったという。

予定だったというのは2日後の3月28日大和は、沖繩特攻に出撃したのである。予定といえは4月7日、大空襲による沈没の夜の夕食は赤飯と鶏肉の唐揚げ、そして夜食はぜんざいだと炊炊員から聞いて、喜んでいた特年兵たち、哀れという言葉もない。

処で、特攻に出る大和がアメ

リカ映画―不謹慎、利敵行為、売国奴、そんな態だから負けたんだと軍国主義、忠君愛国心に固まった方々は目くじら立ってお怒りのことと思うが、実はまだまだこの種のことにはあつたのである。20年2月、飛練42期生として羽田（東京空）へ入隊した私たちは、剣道場である晩エロル・フリン、オリヴィエ・デ・ハピランド主演の「ロビンフッドの冒険」を見た。

私は家にいたとき「大帝の密使」という印度辺境の、一寸残忍な劇映画を見ていて大作はこれで二本目であつたが、アメリカ映画がこんなにも面白いものであつたかと初めて知つた。

御存知悪政に抗し敢然と正義のために戦う愛と冒険の物語。これはもう宿敵とか鬼畜米兵とかの話とは別次元の問題で「芸術は万国共通の宝物」良いものは良いとしか言いようがない。

羽田ではこの外「暗黒街の弾痕」等を見たが名作揃い、洋画

といえど霞空でも見たような気がする。当時一般には敵性映画といふことで上映禁止になつていたが、海軍では艦とか隊で戦前頻繁に上映され、戦中もそのストックが相当あつて、懐かしさ、面白さ半分見ていたくらいがある。そういえば一般学校では、英語教育は中止されたが、予科練でも兵学校でも、英語の学習はそのまま実施されていた。

真珠湾攻撃総隊長「淵田美津雄自叙伝」の中で、日本語の達者な米軍語学将校に終戦後「いつから日本語を勉強したか」と尋ねると大概、戦争が始まってからだという。

そこで「勝てる自信があつたから日本語を学んだか」と聞くと、勝つても負けても相手国の国語が必要になるという返事であつた。本当にそうだ。負ければパンちゃんだつて英語が必要になる。

開戦後間もない12月30日米英音楽の追放が発表された。映画も同様であろう。その理

由が「軽薄・浮薄・物質至上、抹消感覚万能の国民性を露出しているから」だという。

まるで米英がわかつていない（すばらしい「芸術」は本来、戦争を超越しているのだ）イギリスのチャーチル首相は十二月八日アメリカのルーズベルト大統領からの開戦の電話を受け、久しぶりに安心してベツトに上がった。

これで日本は粉々に砕かれるだろうと述べている。冷静に客観的に、力関係から見ればもう結果はわかつていたのだから。

明治・大正・昭和の三代目でパーとなつた日本、財閥解除、農地改革と大変革し、何より自由で平和な日本！そのためにはどれだけの犠牲、どれだけの悲しみがあつたか、その惨禍を無にしないためにも、偏狭な島国根性を捨て、広く世界に目を向けよう。

敗残・傷心の予科練生の私はその後、折に触れ名作といわれた外国映画を見て回つた。「敵

を知り、己を知れば百戦危うからず」これは「孫子」の兵法だが、日本は思ひ上がつていて、中国やアメリカ等を軽蔑してきつた。

「ハワイ・マレー沖海戦」でも「今頃敵さんはこれだろう」等とダンスの恰好をして笑うシーンがあつた。女性とダンスをやる相手国は弱いと思わせることは、極めて短絡的で危険なことなのである。

次に終戦後見た懐かしの映画をしるす。

フランス映画―白鳥の死、格子なき牢獄、禁男の家、舞踏会の手帳、望郷

イギリス映画―黒水仙、赤い靴
ドイツ 映画―未完成交響楽
アメリカ映画―オーケストラ

の少女、哀愁、心の旅路、大編隊、若草物語
イタリヤ映画―がい米、道

いずれも「二十四の瞳」や黒澤明の「七人の侍」等日本にも名作が生まれる以前の映画だ

が、特に戦争関連のものとして、「哀愁」はヴィヴィアン・リー、ロバート・テラー共演、空襲下のロンドン霧に濡れるウォータールー橋、恋人の戦死の誤報から悲しい結末へ。「心の旅路」ロナルド・コールマン、グリア・ガースンのこれは数奇な運命のふたりの愛の物語、戦争終結のサイレンの鳴る中、記憶喪失の男は開いた門から街へ、それを助けた女性と暮らすものの交通事故で再び以前の自分に戻り成功する。

が、心をよぎる一つの影、幾多の波乱を経てアンズの花の下で再会した二人。

「哀愁」と共に名匠マーヴィン・ルロイの監督。

「大編隊」ロバート・テラー主演、これはサンペコーラ海軍戦闘機隊の訓練模様で、これこそ予科練や飛練で見て貰いたかった（空への挑戦に国籍の差はない）烈しい訓練、冷酷な霧、友情と死、我々と全く同じ状況であり感銘するであろう。

続く

図書紹介

元海原会会長の前田武（甲飛3期生）が生前に歴史家の久野潤氏に語った真珠湾攻撃の様子をまとめたものです。

会員の皆様には是非お買い求めされ、ご一読いただきます。紹介させていただきます。

一 紹介図書 歴史街道

「日本開戦の真因と誤算」

二 PHP新書

三 定価 八百八十円

四 紹介記事

「命にかけてくれ」皆の期待を背に、われ敵艦を雷撃す

元空母加賀艦攻隊

前田 武

五 取材・構成

久野 潤

日米開戦の真因と誤算

読み切れなかった
変転する国際情勢
日本交渉を決裂させた
双方の不幸な誤解
弱腰の発言をしにくい
組織の空気

なぜ、日米は対立を深め
開戦へと至ったのか？

歴史街道編集部
PHP
1283

事務所の開設に寄せて

昨年十一月二日、海原会は役員等の高齢化と、時代の要求に対応するために、事務所を予科練の聖地である雄翔園が所在する茨城県阿見町に移転したが、この機会に私と海原会の出会いなどについて綴ってみる。

私は、真珠湾攻撃五十周年の年、平成十一年に当時の海原会の会長でありました前田武さん。

（甲飛3期生）にパールハーバー（ハワイ日蓮宗別院）でお目にかかったのがご縁で海原会に入会させていただいた。

ちょうどその頃、前田さんの搭乗機が攻撃をした、米戦艦ウエストバージニアに乗艦していたリチャード・フィスク氏との邂逅により、海原会とハワイの「真珠湾生存者協会」との交流が始まった。

前田さんが率いる予科練の大編隊とMr・フィスクが副会長を務める「真珠湾生存者協会」

数百名の会員が手を取り合っ
て慰霊祭に参加していたのが、
つい昨日の事のように思い出さ
れる。

また、前田会長が事あるごと
に「我々は常に予科練の名譽を
重んじて行動しなければなら
ない。そのためには「甲飛も乙
飛もない」と、会員の親睦に
熱心に取り組んでおられた姿が
忘れられない。

ミッドウエー海戦の際に、
濡れ衣を着せられたような『甘
利兵曹の名誉回復』の為に予科
練のプライドをかけてご尽力
された事にも感服した。

残念ながら、前田さんを始め
多くの予科練同窓会員も逝去
されて、海原会の運営も阿見町
の地元の方々のご尽力にお願
いするところ大となり、新天地
での再出発に大いなる期待を
しているところです。

令和四年新春

新事務所の開設に寄せて

公益財団法人海原会

理事長 菅野 寛也



令和三年十一月

中野区南台 奈美木 様

涙なくしては見れないもの
多く、有難い気持ちでいっぱい
になりました。

国を守る、祖国のために、今
現代では死語に等しいものと
なってしまうって英霊の御魂に
申しわけない気持ちです。

せめてじぶんに今出来るこ
とをこの命を使ってゆきたい
と、心から思います。心からの
感謝を込めて今を生きる私達に
たくされた事を、平和への思い
のバトンをしっかりと次世代に
つないでゆきたいと思いまし
た。ありがとうございます。又
若い人を連れてきたいと思
いました。これからもこの場所
を守ってください。

令和三年十一月

東京足立区 大木 様

私は都内足立区在住のベテ

ラン三十二年目の看護師の男
性です。現在もワクチン接種に
従事しています。心折れそうに
なって疲れて……こちらと。し
かしながら戦時中の事思えば
現在の困難はまだまだとたく
さんの勇気を頂きました。先人
の方々の。

いろんな想いに共感しつつ、
現代人としてまた、一人の看護
師としてがんばっていきたく
とー

ありがとうございます。
平和をお祈り申しあげます

令和三年十一月

茨城県大洗町 小松崎 様

僕は初めてきました。

この戦争じだいにぼくが生ま
れていたら、とても怖くて零戦
に乗れませんでした。

そう思うと戦ってくれた人
びとにかんしゃしたいと思
います。ありがとうございます。

令和三年十一月

東茨城郡大洗町 小松崎 様

今日、私は家族と初めて雄翔

館に来ました。

私と同じぐらいの方々か戦
争へ行き、とても辛かったと思
います。みんな一緒に行きみん
な一緒に帰れると思いい戦った
ことでしょう。

けれど、みんな死ぬことを悲
しんでいない。自分が死ぬこと
でお国のために役にたったと
嬉しそうに言い残して戦って
くれた皆様に感謝したいと思
います。

今を大事に生きたいと思
いました。有難うございます。

令和三年十月

(匿名)

私も現在、同じようにパイロ
ットを目指して訓練していま
すが、予科練で訓練されてい
たかたがたも私と同じく空にあ
こがれを持って、厳しい訓練に
励まされていたのだというこ
とが伝わってきました。

これからどんなに苦しくて
も最後まであきらめずがんば
りたいと思いました。また彼ら
のような愛する人を守る人

になりたいと強く感じました。

○令和三年十一月

埼玉県越谷市 大竹 様

ここはいっしょのおもいでにしようとおもっています。「おおか」と「ゼロ」がいんしょうに残っています。

○令和三年十一月

東金市 A・A

阿見町予科練記念館に集う機会に雄翔館に寄らせて頂きました。誠に有難く、戦で散った優秀な若い命に涙し、頭をたれる次第で御座います。又、機会を設け見学させていただきます。

○令和三年十一月

清瀬市 大関 様

とても貴重な資料があり涙しながら見学しました。多くの人に見ていただきたい。若くして散った若者たちの思いをこれからもこの会を続けて行ってください。ぜひこの資料館を皆に伝えて下さい。

千葉県立生涯高等学校

38・39・40・41・4

2期生有志の集まり・

○令和三年十一月

歩野歩野クラブ 幹事長

阿部倉 様

毎年六月十三日、千葉県長生郡長柄町高山に参ります。太田實海軍中将慰霊の会に参加する為です。もちろん今年も参りましたが、その中の有志で今日漸く阿見町予科練平和記念館に集うこととなりました。雄翔館にも寄らせて頂き誠に有り難く戦禍で散った優秀な若い命に涙し、頭を垂れる次第で御座います。又、機会を設け見学させていただきます。

○令和三年十二月

福島県田万川村 溝井 様

感激した。将来ある若い人をうしなつたことは、戦後の日本の大きな損失と思つた。遺書、写真がすばらしく実にしつかりしていると……。

○令和三年十二月

ひたちなか市 永島 様

昭和十六年一月に誕生しました。父が六戸駅の駅長をしており終戦まで官舎に住んでました。昭和二十年六月二十三日の夕方のグラマンと零戦の空中戦を見えます。また七月の水戸市の空襲も空を焦がすような火災が内原の平野あたりから先に見えました。

母は防空壕に入っているように叱りました。空襲警報となると母は半狂乱のように姉3人と私を防空壕へ入れさせました。父は毅然として駅の椅子に座ってました。このような若者達の犠牲の上に私達も含めて今も元気でいられるのです。胸がいっぱいです。つくば海軍航空隊記念館をみても涙が流れる八十才です。

○令和三年十二月

古河市 吉葉 様

字はうまい、文章もしつかりしている。心も出来ている。

父母おもい、兄弟おもいと、全て人間ができています。

○令和三年十二月

古河市 関 様

私はもう3回ほど雄翔館に訪れています。学ばば学ばど彼らの想いがひしひしと伝わってきて、何とも言えない寂寥感に襲われて胸が苦しくなります。

私ももうじき彼らと同じ十七・八歳になります。家族を守るためにどれだけの努力をしたのか、どれだけ辛い思いをしてきたのかは計り知れませんが、私も彼らのように日本の役に立てるような立派な大人になりたいと思います。

○令和三年十二月

幸手市 田澤 様

見学できてよかったです。とても悲しいことで、胸がしめつけられました。改めて戦争は絶対にあつてはならず、平和であつてほしいとおもいました。

○令和三年十二月

古河市 吉葉 様

私も三十二才になる男子がおりますが、今は東京でひとりとぐらしをしています。

大学を卒業してばあーつと出ていかれ今、とてもさみしい思いですが、何か戦争によって若い青年の胸の中を考え涙涙です。

わが子にもこの阿見町へ子育て中一度もつれてこなかったことがいまさらながら残念です。気づくのが今だったから！ありがとうございます。

○令和三年十一月

茨城県 大森 様

一人一人の顔がとても印象に残りました。目の奥に覚悟と責任感が見えました。

現代人にはない目をしていきます。その時代(戦時)にそうなるしかなかったと思うと心がしめつけられる思いです。日本人として生まれてよかったです。感激です。こういう施設がずっと残ってほしいです。

既に何回か足を運びました。がまた来ます。今度は自衛官の彼を連れて行きます。

○令和三年十二月

船橋市 赤司 様

三十日の山本五十六のドラマの前にも思い、十二年ぶりに再訪になります。

現在の日本の繁栄は、この方々たちなしでは成り立っておりません。改めて国の為に(というか家族の為に)身をささげた皆様に感謝するとともに、二度と戦争を起こしてはならないと思います。

(公財)海原会寄付者芳名簿

(敬称略) (単位千円)

令和三年九月十六日より

- 五 薄衣 岩雄(乙23)埼玉
- 五 服部 義隆(甲16)神奈川
- 二 真中 天(一般)東京
- 五 稲田 恵一(一般)兵庫
- 五 杉本 勝(一般)千葉
- 一 堀越 雅子(乙13)東京

- 五 永光 頼光(甲16)熊本
 - 一〇 磯部 恭子(一般)静岡
 - 一〇 六車 昌晃(一般)東京
 - 五 出口 一徳(特4)山口
 - 三〇 明石 英次(遺9)東京
 - 五 服部 正昭(乙21)岡山
 - 五 福島 光夫(乙20)千葉
 - 五 水本 滋信(乙23)兵庫
 - 一〇 伊勢 準造(乙24)秋田
 - 五 谷川 諭(遺2)長崎
 - 一〇 宮寄 満夫(非貧)千葉
 - 一 坂本 真菜(学生)熊本
 - 五 行方 滋子(一般)茨城
 - 三〇 ファンデルドゥース瑠璃 (一般)広島
 - 一万四千二百六十円
- 菅野 寛也(一般)静岡
海原会へのご芳志
誠に有難うございました。

事務局日誌

十一月五日

武器学校OB会出席
於 武器学校広報援護班
幹事(海原会担当)の酒井副理

事長、平野理事、篠田理事が出席
八日
大森事務所転出後の確認
於 大森事務所
安井副理事長、平野事務局長が転出した旧大森事務所の清掃作業を行った。

十六日
小野評議員来所
於 事務局
小野評議員が来所、平野事務局長が移転後の状況について報告

十九日
税務関連の手続き実施
於 品川税務署
税務関連の移転手続きを実施

十九日
大森事務所の売買契約締結
於 野村不動産事務所
野村不動産ソリューションズの仲介で大森事務所の売買契約が締結

安井副理事長、平野事務局長が立ち合い
二十四日
武器学校長表敬訪問

於 武器学校

安井副理事長、酒井副理事長、

平野理事の三名で武器学校長

を表敬訪問

二十四日

事務所開き

於 事務局

参加者

小野・湯原評議員、安井・酒井

副理事長、平野・篠田・山下・

湯原各理事、武器学校広報援

護班長、予科練平和記念館長

二十九日

ご遺族来所

於 事務局

甲飛十三期石井信市様長女中

田真理子様遺品寄贈のために

来所

三十日

安田直弘様来所

於 事務局

雄翔館内案内音声の提供要請

のため来所、平野事務局長が

面談

三十日

NHK取材対応

於 武器学校

山本五十六元帥銅像について

NHK右田ディレクターの取

材を受けた。平野理事、行方参

与が対応

十二月

二日

武器学校部外講師来所

於 事務局

武器学校幹部特修課程部外講

師、いすゞ自動車(株)矢澤元様

来所 平野事務局長が対応

三日

特別企画展撤収作業

於 雄翔館

参加者 湯原霞ヶ浦支部長、

行方副支部長、平野理事

第五十四回慰霊祭特別企画写

真展の終了に伴う撤収作業を

実施

三日

小さな展示室展示作業

於 雄翔館

第二回小さな展示室の展示作

業を行方参与が実施

四日

武器学校後援会会員来所

於 事務局

甲飛十三期工藤拓二様長男

工藤垂穂様来所

五日

工藤垂穂様ご案内

北浦及び神乃池海軍航空隊跡

地をご案内した。

七日

予科練平和記念館学芸員来所

於 事務局

予科練平和記念館豊崎学芸員

が表敬訪問された。平野事務

局長が対応した。

税務関係手続きの実施

於 土浦・竜ヶ崎税務署

事務所の移転手続きを実施

八日

小林正志様来所

於 事務局

元OB会の海原会担当会計

係であった小林様が来所

十日

税務関係手続き実施

於 阿見町役場

事務所の移転手続きを実施

十二日

武器学校記念行事参列

於 武器学校

安井副理事長が理事長代理と

して出席した。

十五日

大成建設田中様来所

於 雄翔館

雄翔館のエアコン設備の確認

のために大成建設田中様が来

所

十六日

慰霊コンサート会場視察

於 阿見町本郷ふれあいセン

ター

池顧問と平野理事で慰霊コン

サート会場の下見を行った。

十六日

十二月定例理事会開催

於 海原会事務局

出席者 菅野理事長、酒井副

理事長、池顧問、平野理事、湯

原理事、山下理事、星指理事、

保坂理事(テレビ会議で出席)

二十日

大森事務所の引き渡し

於 野村不動産(大井町)

安井副理事長、平野理事が売

却契約後の引き渡しに立会

二十六日

会員来所

於 海原会事務局

磯部会員が表敬訪問、平野理

事が対応した。

海原会会員の皆様へ

大切な人と寄り添うお葬式

家族葬

のことが知りたい

お葬式のご依頼や

「もしものとき」に

備えた事前のご相談

年中無休で承ります

相談・見積無料

お客様満足度

99%

※
自宅葬、日葬、お別れ会のほか、
ご希望に合わせた
お葬式プランがございます。

※当社施行客アンケート調べ

新型コロナウイルス感染拡大防止に万全を期しています。

お墓

お墓のことなら何でもご相談ください。墓石工事は信頼の10年間の保証書付きます。

墓所工事

標準価格
(10万円以上)の
10%割引

サービス提供エリア:
関東・関西・東海



「お墓のお引越しガイド
& 事例集」

無料で資料を差し上げます。

お葬式

葬儀一式をセット化した「葬儀式セットプラン」を各種ご用意。最適なプランをお選びいただけます。

葬儀

祭壇標準価格の

20%割引

※一部斎場、一部商品を除く。
新花で送る家族葬は
優待料金
サービス提供エリア: 関東



「お葬式の流れが
わかる100項目」

無料で資料を差し上げます。

お仏壇

仏壇店は首都圏に2店舗(国分寺・千葉)。伝統型仏壇や家具調仏壇、手元供養商品まで豊富な品揃えです。

仏壇

店頭価格の
25%割引

※ただし、催事特価品と
仏具小物、手元供養商品
は対象外
サービス提供エリア: 関東



「お仏壇カタログ」
「特選 お位牌」

無料で資料を差し上げます。

お問い合わせは
海原会事務局へ

03-3768-3351

お問合せの際は、「予約練を見た」とお申し出ください。

MAO
MEMORIAL ART OHNOYA



メモリアルアートの大野屋

<http://www.ohnoya.co.jp>



「予約練」第469号3・4月号
昭和53年7月26日第3種郵便物認可

令和4年3月1日発行
(隔月奇数月1回1日発行)
編集人 菅野寛也

保坂俊雄

発行所 〒

300-0301

公益財団法人 海原会
茨城県稲敷郡阿見町青宿489番地1

(慎輝ビル3階)

郵便振替
0014019154332
0014019154332
0014019154332
0014019154332
0014019154332
0014019154332
0014019154332
0014019154332
0014019154332

定価500円